



# 学校教育推進室だより

東大阪市教育委員会 学校教育推進室 平成 23 年 9 月 2 日  
〒577-8521 東大阪市荒本北一丁目 1 番 1 号 TEL06 - 4309 - 3268

- 東大阪市学校教育基本目標  
すべての子どもに生きる喜びとあすをつくる力を
- 東大阪市学校教育重点目標  
学校園の活性化と確かな学力の育成  
総合的視点に立つ教育の推進、人間尊重に徹した人権教育の実践、  
信頼に応える学校園経営、学校園・家庭・地域の協働

## 新しい学習指導要領の研修会で、授業力アップ!

8月25・26日、東大阪市・八尾市・柏原市の中河内地区3市合同で、中河内地区教育課程研究協議会が、各教科や道徳・総則などの領域に分かれて9会場、27部会で開催されました。

小学校では今年度から、中学校では次年度から、新しい学習指導要領に則った指導が全面的に実施されます。文部科学省は今回の改訂において「次代を担う子どもたちが、これからの社会において必要となる『生きる力』を身に付けてほしい」という思いから、知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視しています。これを受け、各会場では、先進校から日常生活と結びつけた指導方法の工夫や新たなプログラムなどが報告され、また指導主事からは文部科学省・大阪府教育委員会からの指導事項の伝達等が行われました。

右の写真は、中学校の技術・家庭科部会の様子です。3市から60人を超える教職員が参加しました。

学校からは『衣生活あれこれ～衣生活における、日々の身近な実践より～』というテーマで、報告がありました。東大阪市中学校技術・家庭科研究会が、新入生に対して行っている『家庭科の授業で特に学習したい内容についてのアンケート』によると、毎年「玉止め・玉結びの学習をしたい」という回答が比較的多いそうです。ミシン縫いの練習に取り組む一方、手縫いの基礎が苦手な生徒が多いということがわかり、研究会では“手縫いの基礎に関するDVD”などを自主制作しました。報告ではこのDVDが紹介され、参加した教職員からも、「是非活用したい」という感想が寄せられました。

夏休みも終わり、小中学校では本研修を生かした授業が実践され、より多くの児童生徒に『生きる力』が養われ、さらに成長することが期待されます。



## 特別支援教育に関わる夏季研修を終えて

今夏、支援学級担当者や特別支援教育コーディネーター・一般教職員への研修に加え、学校介助員・スクールヘルパー・ケアアシスタント・特別支援教育支援員研修を実施しました。各研修の具体的内容は違いますが、それぞれ中心にあるのは、東大阪市学校教育基本目標・重点目標にある《「ともに学び、ともに育つ」学校園づくり》《学校園教育全体で取り組む特別支援教育》《子どものニーズに即したきめ細かな指導》《自己実現につながる就学指導・進路指導》です。

研修終了後、受講者からは「自分はケアアシスタントとして、先生方ともっともっと連携を密にして日々接している子どものためにがんばりたい」、「子どもの立場に立って、学校生活が楽しいと思えるような介助ができるよう気をつけたい」等の意見がありました。それぞれ立場や役割は異なっていますが、本市の特別支援教育に関わるすべての方が、「すべては子どものために」という思いで日々子どもと接しておられることを再確認し、大変心強く思いました。

以下の写真は、「知的障害のある子どもたちの生活能力を高める支援方法」というテーマで、大阪府立八尾支援学校の先生お二人を講師にお迎えした「特別支援教育研修会」（8月29日）で紹介された教材です。「自立」をめざし、買い物等の実生活に活かせる教材を作り、活用して卒業後の社会生活を考えながら教育することの大切さを学びました。



今後も引き続き、各研修を活かした、全教職員での特別支援教育の推進をお願いします。



# 中学校生徒会交流会が開催されました



特別活動における生徒会活動の充実を目的に、市内中学校の生徒会メンバーが集まり、各学校の「取り組み交流」と、「東日本大震災にける被災地に対して私たちができることは何か」をメインテーマに、2日間にわたる熱い交流会が行われました。

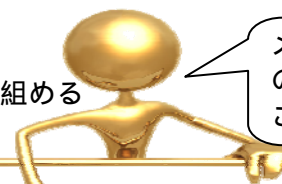
第1回の交流会(7/6)では、「他校の実践に学ぼう」ということで各校の取り組みの交流を行い、また他校の生徒が交じり合うグループの中で、自分たちにできる被災地への具体的な支援とその課題について、KJ法を使いながら活発な意見交流が行われました。そして、第2回目の交流会に向けて「被災地に対して私たちにできること」に向けてのスローガンと具体的な支援等について、各学校で話し合ってくるという課題が出されました。

## 【「被災地に対して私たちにできること」で出された主な意見】

- 募金活動をする
  - 団扇にメッセージを書いて送る
  - リサイクル活動に取り組む
  - 学校でムービーをつくって送る
  - 千羽鶴を折って送る
  - 節約・節電する
  - ひまわりの種を送る(放射能を吸収するから)
  - 大阪ならではの笑いのメッセージを送る
  - 各学校で集めたもので、フリーマーケットを開き、募金にする
  - 物資を送る
- など



第2回の交流会(8/24)では、1回目の交流会で出された課題をもとに、各学校で話し合ってきたことを発表し合いました。被災地に対して私たちにできることとして「スローガン(メッセージ)」や、「26校で取り組める義援金の集め方」等具体的に決めていきました。



メッセージの作り方はこうだ!

【スローガンは】

# HEART TO HEART

つながろう日本

つなげよう日本

スローガンは、26文字で構成されているので、各学校が1文字を担当し、人文字や千羽鶴、手形、花などで作ります。それを写真(Lサイズ)に撮り、パネルに貼ってメッセージを完成させます。

義援金の募金活動については地域にも発信し、9月から10月頃にかけて実施する予定です。



各校のスローガンの一覧

最後に、11月に実施される大阪府生徒会サミットの代表校を、孔舎衛中学校に決定しました。孔舎衛中学校には、自校の取り組みはもちろんのこと東大阪市の生徒会交流会の取り組みを発信するとともに、府内の様々な取り組みから学んだことを持ち帰り、自校及び東大阪市の生徒会活動の活性化につなげてもらえることを期待しています。